| 科目ナンバリング | G-LAS12 80052 LJ13 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | プラットフォーム学展望<br>Perspective in Platform Studies | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 情報学研究科 教授　　原田　博司 | | |
| 群 | 大学院横断教育科目群 | 分野(分類) | 統計・情報・データ科学系 | 使用言語 | 日本語 | | |
| 旧群 | | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義（対面授業科目） |
| 開講年度・<br>開講期 | 2026・後期 | 曜時限 | 火5 | 配当学年 | 大学院生 | 対象学生 | 全学向 |

（情報学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

**[授業の概要・目的]**

本講義では、社会に遍在する各種情報をディジタルデータ化し、そのデータを広範囲に収集し、ビッグデータと呼ばれる大規模データとして蓄積、それらデータの整理・分析・共有するという情報通信（ICT）技術を利用した“プラットフォーム”に関連するテーマについて、本研究科の教授、プラットフォーム学卓越大学院プログラム担当教員、外部講師により最先端の話題の提供を行う。

**[到達目標]**

情報通信技術の観点からプラットフォーム学を俯瞰し、特に、知能情報学・先端数理科学・数理工学・システム科学・通信情報システムに関する理解を深めるとともに、今後の展望を自ら考える。

**[授業計画と内容]**

1.　プラットフォームの概要（１回）：プラットフォーム学で取り上げるプラットフォームの概要を解説する。
2.　通信情報システムとプラットフォーム（１回）：社会に遍在するする各種情報・データをサイバー空間に収集し、収集したビッグデータを処理した結果を実空間にフィードバックするプラットフォームで利用される通信情報システムを展望する。
2.　知能情報学とプラットフォーム（３回）：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を知能情報学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。
3.　先端数理科学とプラットフォーム（１回）：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を先端数理科学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。
4.　数理工学とプラットフォーム（１回）：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報を数理工学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。
5.　システム科学とプラットフォーム（２回）：サイバー空間上に収集された、センサー、メーター、モニター情報をシステム科学の観点で整理、解析、分析、利活用する実際を展望する。
6.　情報通信基盤を利用したプラットフォームの実際（４回）：社会で実運用されている情報通信基盤を利用したプラットフォームの実際を展望する。
7. 到達度評価　　１回（レポート試験）

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

各テーマごとに課すレポート課題により評価する。また、平常点、授業への積極的な参加も評価に用いる。

プラットフォーム学展望(2)へ続く↓↓↓

**プラットフォーム学展望(2)**

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）
原田博司『プラットフォーム学』（Kadokawa，2024年）ISBN:9784049111415

**[授業外学修（予習・復習）等]**

各講義の復習を行い、レポート課題に取り組む。

**[その他（オフィスアワー等）]**

オフィスアワーはメールのやり取りで随時行う。 メールアドレスは授業中に示す。

**[主要授業科目（学部・学科名）]**